

## 自己評価報告書

平成 23 年 2 月 22 日現在

機関番号：14101  
 研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2008～2011  
 課題番号：20592479  
 研究課題名（和文） 看護師を対象とした「共感的患者理解のための視点取得教育プログラム」の開発  
 研究課題名（英文）  
 Development of Perspective-Taking program on empathic understanding of patients  
 研究代表者  
 林 智子（HAYASHI TOMOKO）  
 三重大学・医学部・教授  
 研究者番号：70324514

研究分野：基礎看護学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：共感的患者理解，視点取得，看護教育，教育プログラム，看護師

## 1. 研究計画の概要

本研究の目的は、患者と看護師が登場する仮定の場面を用い、その場面での看護師の思考傾向や患者心理の理解方法の違いを検討し、看護師の思考の違いによる効果を検証することである。つまり、模擬看護場面を用いた教育プログラムを看護師に実践し、その効果を評価することであった。

## 2. 研究の進捗状況

今年度は、2つの模擬看護場面についての教育プログラムを考案した。一つは、糖尿病で食事療法を受ける患者が間食をした場面を取り上げて、その時の患者の心理推測をする教育プログラムである。これを看護学生4年生に実施し、場面における思考の特徴と看護学生の思考の特徴が示された。

2つ目は、人工肛門造設予定の患者が人工肛門を否認した場面を取り上げて、その時の患者心理を推測する教育プログラムを作成した。これを来年度は看護師を対象に実施し、プログラムの検証を行う予定である。

## 3. 現在までの達成度

③やや遅れている。その理由として、昨年の調査データはまとめて学会発表や論文投稿には至ったが、教育プログラムに発展させるための模擬看護場面の検討に苦慮したため、教育プログラムの作成に時間を要した。2つの模擬看護場面を使用した教育プログラムの内容については、おおよその目途が立ったため、来年度は早々に実施したい。

## 4. 今後の研究の推進方策

今後は教育プログラムの試作を実施し、その評価を行うことである。来年度早期にプロ

グラムを実施する計画である。

## 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計0件）

〔学会発表〕（計2件）

①林智子：アディクション行動を正当化する患者心理理解における看護師の思考過程の分析、第30回日本看護科学学会、札幌コンベンションセンター（札幌市）、2010年12月4日

②林智子：否認という無意識の患者心理理解における看護師の思考過程の分析、第36回日本看護研究学会、岡山コンベンションセンター（岡山市）、2010年8月22日

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕